

【執筆者プロフィール】

中島志郎／一九五三年、京都府生まれ。花園大学文

学部仏教学科卒。韓国東国大学大学院碩

士課程修了。花園大学教授。

細川晋輔／一九七九年東京都生まれ。花園大学大

院文学研究科仏教学専攻（修士課程）修

了。東京都龍雲寺住職。

志水一行／一九八三年、長野県生まれ。花園大学大

学院文学部日本史学科卒。花園大学歴史

博物館研究員。

《『圓悟心要』 訳注・花園大学国際禅学研究所

『圓悟心要』研究会参加者》

野口善敬（九州西教区・長性寺住職）

小川太龍（兵庫教区・常楽寺副住職）

桐野祥陽（京都両丹教区・大泉寺住職）

瀧瀬尚純（京阪教区・寒山寺住職）

廣田宗玄（兵庫教区・順心寺住職）

本多道隆（京阪教区・梅松院副住職）

丸毛俊宏（愛知西教区・永弘院住職）

【編集後記】

『臨済宗妙心寺派教学研究紀要』第一四号が、ここに無事発刊の運びとなりました。今号にも四本の研究成果を収めることができました。

まず花園大学教授・中島志郎氏は、「道信『一行三昧』考」と題して、四祖道信の主張する「一行三昧」を、浄土教の善導の理解と対照されることで検討を加えられました。また、本派の議員でもあり、行学の一致した気鋭の禅僧である細川晋輔師は、「盤珪の法嗣、節外祖貞禅師の行履——光林寺旧蔵『光林二世特賜大慈妙應禅師年譜』を中心に——」と題して、江戸時代に活躍した盤珪禅師の法嗣、節外祖貞の光林寺所蔵の年譜に訓注を付けることで、盤珪の事蹟と思想について検討を加えられました。さらに花園大学歴史博物館研究員の志水一行氏は、「近世妙心寺派における頂相制作の一例——水谷憬南・中天景団の作例——」と題し、水谷憬南と中天景団という二人の頂相絵師の作品を通して、近世の妙心寺派の動向と、そのネットワークについて考察されました。加えて、前号に引き続き、『圓悟心要』の輪読の成果を、今号は拙稿が担当させて頂きました。ご執筆頂きました皆様には、ここに厚くお礼申し上げます。

さて『教学研究紀要』は、臨済宗門において唯一の学術雑誌であり、学識に裏打ちされた宗門人育成の契機となることを祈念して創刊されました。ただ学術雑誌ゆえに専門性が強く、内容も高度な論考を掲載する媒体ですから、一部の僧侶からは敬遠された嫌いもあったものと思えます。しかし、一方で、宗門内での学問に対する意識の高まりは着実に増したと確信しております。また弊誌は、第一一号から紙媒体での刊行を止め、インターネット上でのみ公開する「電子紀要」となりました。この試みは、まさに当時にあったは面的なものでした。これ以後、宗門内においても、布教の手段としてのネットの重要性の認識が高まったと、大変に評価されております。

しかし、本年より教化センターの機能の一部を花園大学の国際禅学研究所に移行することになり、学術論

文発表の場としての紀要を、国際禅学研究所から発刊している『論叢』に一本化することとなりました。創刊当初は三号雑誌や五号雑誌で終わるのではないかと心配されておりました弊誌でしたが、一四号まで号を重ねることができましたのは、ひとえにこれまでご購入頂きました皆様、ならびに素晴らしいご研究をご投稿頂いた先生方のお陰です。ここに厚くお礼申し上げます。

禅が「不立文字、教外別伝」を標榜する宗教であることは、今更申し上げる必要のない自明の事実であります。一方、行で培った境地を教学によって補完することも大切なこともまた言うまでもありません。来年遠諱を迎える臨済宗中興の祖・白隠慧鶴禅師の高足である東嶺圓慈禅師も、「今時さいきん（の修行者たちは）」往々にして没意智ぼつぎちを禅だと思つて経論を用いようとしなない。「そうして」反対に「このように」言う（「始末だ」、「教外別伝（の修行）」に、どうして経論を用いる「必要がある」のか」と。「こういった連中は、」全く分かつていないのだ、教外別伝が明らかであれば、教内けうないが何も妨げにならないということが。教外にもし教が備わっていないければ、教外もまた真実ではないのだ（今時、往往以没意智為禅、不用経論。却道、教外別伝、何用経論。殊不知、教外別伝分明、教内何妨。教外若不容教、教外亦非真」〔宗門無尺燈論〕「透関第五」と述べて、修行者を戒められました。ましてや僧堂を出て、一ヶ寺の住職となつて檀信徒を教化するためには、確かな仏教の理解が必要となることでしょう。

今後、教化センターが花園大学国際禅学研究所と連携することで、宗門の皆様にとつて、これまで以上に仏教や禅を専門的に学ぶことのできる機会が増えるものと思えます。弊誌は今号で休刊となりますが、これからも宗門の皆様には、祖師たちを手本とし、僧堂での修行は当然のこと、様々な機会を利用して、さらに專一に仏教や禅を学び、学識豊かな禅僧を目指して頂きたいと切に願う次第です。

末筆ながら、教化センターの釋泰堂師には、事務全般の労を煩わせました。ここに深く感謝申し上げます。また、これまでお手伝い頂いた研究員の皆様にも、この場を借りてお礼申し上げます。

（廣田宗玄）

臨濟宗妙心寺派

教学研究紀要 第十四号

平成二十八年 七月一日 発行

発行人 栗原正雄

編集 妙心寺派宗務本所教化センター

制作 株式会社石田大成社

発行所 妙心寺派宗務本所教化センター

〒六一六一八〇三五

京都市右京区花園妙心寺町六十四

電話（〇七五）四六三一三二二一代